

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|--|--|---------------|-------|---------|-----|
| 事業名 | 国道329号 宜野座改良 | | 事業区分 | 一般国道 | 事業主体 | 沖縄総合事務局 | |
| 起終点 | 自：沖縄県宜野座村字宜野座 至：沖縄県宜野座村字漢那 | | | 延長 | 2.7km | | |
| 事業概要 | 国道329号は、沖縄本島東海岸側を南北に縦断する主要幹線道路であり、宜野座村字宜野座から字漢那にかけては、急カーブや急勾配等の線形不良箇所が複数あり、交通事故の恐れが非常に高い場所となっている。また、沿道は住宅、商店、公共施設などが密集しており、交差点や車両乗入口も多く、幹線道路としての機能が低下している。宜野座改良は交通安全の確保、地域交流の促進、幹線道路としての機能向上に大きく寄与する道路である。 | | | | | | |
| H2年度事業化 | 都市計画決定不要 | | H11年度用地着手 | H14年度工事着手 | | | |
| 全体事業費 | 66億円 | | 事業進捗率 | 76% | | 供用済延長 | 0km |
| 計画交通量 | 6,400台/日～7,400台/日 | | | | | | |
| 費用対効果分析結果 | B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 4.8 | 総費用 (残事業)/事業全体 21/77億円 事業費：13/70億円 維持管理費：7.6/7.6億円 | 総便益 (残事業)/事業全体 100/100億円 走行時間短縮便益：77/77億円 走行経費減少便益：19/19億円 交通事故減少便益：3.0/3.0億円 | 基準年 平成20年度 | | | |
| 事業の効果等 | ・安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる） ・物流効率化の支援（農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上） ・円滑なモビリティの確保（当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する） 他6項目に該当 | | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 | 宜野座改良の整備により、交通安全の確保、地域交流の促進、幹線道路としての機能向上が期待されており、地元宜野座村から早期整備の要望を受けている。 | | | | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 | ・劣悪な道路構造の中、交通量が増加傾向のため、地域の交通安全上の課題が深刻⇒交通安全の確保 ・プロ野球チームのキャンプ開催等により、産業が活性化 ⇒地域交流の促進 ・沿道施設密集地域において、交通量の増加に伴い、幹線道路の機能が低下 ⇒幹線道路の機能向上 | | | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 | 全体事業費での進捗率が76.0%、用地買収の進捗率は82.4%であり、平成21年3月24日に1工区の部分供用を予定している。 | | | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 | 2工区においては、終点側の計画予定地に県内でも重要な文化財（通称ヨリアゲの森）が存在し、また、文化財の国道向かいには北部地域の医療の中核を担う北部病院もあることから関係機関との協議の結果、一部区間を現道改良（縦断勾配は特例値を採用）することで現計画を見直しを実施した。 今後は、平成21年3月24日に1工区の部分供用を予定している。 | | | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 | 2工区の一部区間の現道改良及び同工区新設区間の道路幅員の縮小によりコスト縮減を図る。 | | | | | | |
| 対応方針 | 事業継続 | | | | | | |
| 対応方針決定の理由 | 以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。 | | | | | | |
| 事業概要図 | | | | | | | |

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。